

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語 1
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	PROMINENCE English Communication I, 同準処予習ノート, WORKBOOK Standard, Word Tree3000,				
担当教員	藤井 浩美				
到達目標					
1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身に付ける。 2. 教科書の読み物を、100語~200語のパートごとに、重要語句と重要文法事項を意識しながら正確に理解できる。 3. 教科書の読み物で学習した重要語句と語彙集の語彙やチャンクの意味を理解し、習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	予習復習に加え、自分なりの目標も決めて英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。		予習復習中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。		予習復習が十分にはできなかった。
到達目標2	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。		教科書の読み物の英文理解が50%以下にとどまっている。
到達目標3	教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句を80%以上の正確さで理解し、習得している。		教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句を60%~79%以上の正確さで理解し、習得している。		教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句の理解や習得が60%未満である。
。。					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に、教科書の音読を通して英語の発音と自然なリズムと直読直解のスキルを身に付ける。さらに、語彙集を用いて語句やチャンクを暗記し、語句の使い方を学習し、語彙力を増やす。				
授業の進め方・方法	教科書準拠の予習ノートを用いて授業を行う。予習では、新出単語や不明な語句を辞書を使って調べる。授業では、単元の学習のポイントのスライドを用いて説明し、その後音読やシャドウイングを行ってインプットの定着を促進する。復習として、その単元のワークブックの問題を解き、学習内容の定着を図る。語彙集に関しては、小テストを随時行い、学習の進度を確認する。 【授業時間60時間】				
注意点	1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーションで指示するやり方で、十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として、長期休暇中に課題を課す。 4. 語彙集を用いて、単語テストを実施する。 5. 後期中間試験後に、学習到達度試験（GTEC）を実施する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson1	学習方法についての理解 到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		2週	Lesson1	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		3週	Lesson1	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		4週	Lesson1	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		5週	Lesson2	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		6週	Lesson2	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		7週	Lesson 2	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間答案返却	音読	
		10週	Lesson 4	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		11週	Lesson 4	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		12週	Lesson 4	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		13週	Lesson 6	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		14週	Lesson 6	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		15週	Lesson 6	到達目標の1~3について、全Lessonを題材に学習します。	
		16週	前期末試験 前期末答案返却		

後期	3rdQ	1週	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		2週	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		3週	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		4週	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		5週	Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		6週	Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		7週	Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間答案返却 音読	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		10週	Lesson9	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		11週	Lesson9	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		12週	Lesson9	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		13週	Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		14週	Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		15週	Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		16週	学年末試験 学年末答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				<p>中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16</p>
		英語運用能力の基礎固め		<p>日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。</p>	3	
				<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。</p>	3	
				<p>説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
				<p>平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
				<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p>	3	
				<p>実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。</p>	3	
		英語運用能力向上のための学習		<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。</p>	3	
				<p>実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。</p>	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	15	0	10	15	100
基礎的能力	60	15	0	10	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0